

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

21世紀は、折れない心と感情のバランスを整える

ユヴァル・ノア・ハラリ（歴史学者、哲学者、18年と20年にダボス会議で「人類の未来」について基調講演）

1. 今も昔も人生は2段階に分かれている。学習の期間とそれに続く労働の期間だ。最初の段階で個性を育み、人格を形成し、専門的なスキルを取得する。次の段階では個性とスキルを生かして社会に出て、生計を立て、社会に貢献する。しかし、この伝統的なモデルは時代遅れになるだろう。人間が適応できる唯一の方法は生涯を通じて学び続け、繰り返し自己改革することだ。
2. すでに出来上がった今の自分、それなりに安定した仕事、思い描く世界観にしがみつこうものなら、置き去りにされ、世界の変化から取り残されるだろう。人々はこの終わりなき試練を乗り越え、極めて激しいストレスに耐えるために、折れない心「レジリエンス」を持ち、感情のバランスを整える必要がある。
3. 変化に対処し、繰り返し自己改革するには、既成概念を取り払い、未知への挑戦をしなければならない。成功体験に縛られず、失敗を覚悟すべきだ。自分の個性をも変える必要がある。変化し続けるには、精神的なバランスを維持しつつ、混乱や失敗を恐れずに未知のことに慣れし親しむことが求められるだろう。

(参考:「日経ビジネス」2021年1月11日号)

幹部への活きた言葉

「読書の力はすごい」を伝えていく

安田 登 (能楽師)

1. 年齢の上の方たちが、読書の素晴らしさを若い世代に教えることがとても大事だと思います。そのためには、読んだ本の学びを自分自身が実践することです。でも、そうした本のすごさ、素晴らしさを子供たちに教えることもできていないし、大人たち自身も気づいていない。だから、まず大人が本に書いてある教えを実践し、周りの若い人に「読書の力ってすごいんだ」ということを伝えていくことがすごく大事だと思います。
2. 学生時代の先生が「本は書いた人の視点に立って読みなさい」と教えてくださって、これも実践しています。書いた人の視点な立つことで、「たぶんこの行間にはこういうことが書きたかったのではないか」などと、文字として書かれていること以上のことが見えてきて、読書の学びがより深くなります。

(参考:「致知」:2021年3月号)

ワンポイント経営アドバイス

優勢な資源となる経験と知識

音部大輔 (クー・マーケティング・カンパニー 代表取締役)

1. コロナ禍で起こった環境の変化、それ自体を問題と捉えてしまうと、本質を見誤ります。コロナ禍で起きた変化が問題なのではなく、その変化が自社の戦略を構成している「目的」と「資源」に影響を及ぼすことが、本質的な問題なのです。その本質を押さえたいうえでまずやるべきなのは、目的を明確にすることです。
2. 目的が定まったら、次にやるべきことは資源の見直しです。目的に対して優勢な資源を見つけることで、「勝つ確率」は高まります。では、どのようにして優勢な資源を増やせばよいのでしょうか。私は「知識」に着目すべきだと考えています。経験と知識を軽視する組織では、組織における学びが蓄積されていません。失敗から学んでいないので、取り組みをより効果的に実践できていないのです。(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年1月23日号)

古典に学ぶ

孔子には奇蹟が一つもない

(解説) しかし余は、宗教としてはた経文として耶蘇の教がよいのであろうが、人間の守る道としては孔子の教がよいと思う。こはあるいは余が一家言たるの嫌があるかも知れぬが、ことに孔子に対して信頼の程度を高めさせるところは、奇蹟が一つもないという点である。キリストにせよ、釈迦にせよ、奇蹟が沢山ある。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)